

## 2020年物理学会年次大会（春季）誘電体分科のメール審議記事録

新型コロナウイルスの流行に伴い、2020年物理学会年次大会（春季）の開催は中止となった。2020年3月17日（17:30～18:30）に予定されていた領域10誘電体分科インフォーマルミーティングの開催もできなくなった。関連議題を審議するため、誘電体メーリングリストを利用してメール審議に変更した。

2020年3月19日、運営委員

承認事項：

### 1、次々期領域運営委員について

次々期領域運営委員（2020年10月～2021年9月）として、石井悠衣氏（大阪府立大学）を推薦することが承認された。

報告事項

### 1、学生優秀発表賞規則の改正について

学生優秀発表賞規則の改正に関する以下の報告があった。

- ① 領域10学生優秀発表賞の条件が緩和された。（1）発表回数を2回にする。筆頭者として、過去発表1回と受賞時口頭発表1回とする。（2）2年間に1回しか受賞できない制限をかける。（3）審査はこれまでの方法で行う。（4）2020年秋季大会から施行する。
- ② それに伴い、規則が改正された。

### 2、領域10運営会議の報告について

2020年12月20日開催された運営会議に関する報告があった。以下は主な内容である。

- ① 大会改革について、（1）冊子体プログラム廃止により、講演申し込みの締め切りを約2週間遅らせることが予定されている。（2）論文授賞式・総合講演をパラレルセッションとなり、この時間帯に通常セッションを行うことが可能となった。（3）午前や午後のセッションの前半、後半に異なる領域のセッションが入る。（4）初日午前や最終日午後もセッションを多く入れるプログラムの編成。（5）ポスターセッションは1日当たり3コマを割り当てる。
- ② 学生優秀発表賞の条件について、発表件数を2回に緩和する意見集約ができた。それに伴い、規則が改正・承認された。
- ③ 座長に予稿原稿の配布について、運営委員から事務局宛に予稿原稿の配布依頼のメールを出すことで対応するとした。

### 3、2020年年次大会学生優秀発表賞の審査について

誘電体分科において学生優秀発表賞の一件の申請があったことが報告された。物理学

会の方針に基づき、領域10各分科は学生優秀発表賞の資格審査を行った。申請者は広島大学の加藤盛也氏であった。氏は2018、2019年秋2大会にそれぞれ口頭発表を行った。今回の口頭発表も物理学会として認められたことを運営委員も確認したため誘電体分科としては学生優秀発表賞の受賞資格があることを確認した。過去の2回口頭発表を考慮し、今回の審査は概要集と発表内容をまとめたスライドで書類審査を行うこととした。誘電体分科としては採択することとした。

#### 4、領域10：正副代表・運営委員について

2020年度領域10の正副代表・運営委員・連絡委員に関する紹介があった。

#### 5、国際会議の告知について

広島大学の中島先生より 15th Russia/CIS/Baltic/Japan Symposium on Ferroelectricity(RCBJSF)の案内があった。

メール審議期間：2020年3月19日～3月22日

メール審議議事録の作成：運営委員符、2020年3月26日。